

（鯖街道熊川宿 説明看板：松木神社）

まつのき 松木神社

この神社には、重い課税に苦しんでいた小浜藩の農民を擁護した村の指導者、まつのきしやうざうもん松木庄左衛門（1625 年～1652 年）が祀られています。4 世紀が経った後も彼は、自分の命を犠牲にして、仲間である村人にかかる負担を軽減しようと努めた英雄として、若狭地域で記憶されています。

城の建設資金のための重税

江戸時代（1603 年～1867 年）には、お金の代わりに米や豆などの品が税の支払いに使われていました。17 世紀初頭、京極家が小浜藩を統治するよう任命された時、彼らは小浜城の建設へ資金を提供するため大幅に増税しました。例えば、大豆で支払われる税は約 12～25%増加しました。この課税水準は、酒井家の統治下で 1641 年に城が完成した後も変わりませんでした。農民は、初めのうちは何とか支払うことができましたが、不適切な税負担は藩全体の多くの人々の生活を危険に晒しました。

まつのきしやうざうもん 松木庄左衛門農家のために訴える

まつのき松木は、この地域の 252 の村から集まった 20 人超の代表者の一人であり、不当な課税について話し合うために集まり、税率の改定を地方政府に直接請願しました。10 年以上も成功しない訴えが続いた後、ついに税が元の水準まで減税されました。しかし、当時の厳格な社会階級の区分のため、身分の低い人々がこのように政府へ直接請願することは違法でした。長年の過程で重要人物であった松木は、1648 年に逮捕され、1652 年に日笠川の岸で磔になり、28 歳で命を落としました。

社殿と境内

1933 年、まつのき松木神社は松木庄左衛門と彼の犠牲的な行動に敬意を表して建てられました。神社は、かつて小浜藩の公的な米の倉庫があった土地にあります。日本の神社の大部分は古くから崇拝されてきた神道の神々を祀っていますが、まつのき松木神社は、比較的最近の歴史上の人物を崇拝する神社の一例です。最初の鳥居の向こうには、片膝をついて文章をさし上げる姿の大きな松木の像があり、庶民に代わって藩の役人へ請願した瞬間を表しています。